

オオクチバス

目科名：スズキ目サンフィッシュ科
 学名：Micropterus salmoides
 原産地域：北アメリカ

特定外来生物

総合対策外来種

産業管理外来種

定着予防外来種

日本の侵略的外来種
ワースト100

高山

森林

農地

都市地

河川

池沼

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来水生生物の駆逐

- ・在来魚や甲殻類を食べて駆逐
- ・小魚等の激減により、水鳥の生息数の減少も
- ・大型個体の胃から、水鳥の雛やネズミ類、ヘビ等が出てくることもあり

産 業：漁業への被害

- ・水産有用種への食害
- ・漁業操業時に網にかかりすぎる等の被害

全長 30~50cm 最大97cm
 (最大級に達するまでには6~7年かかる)

【成 魚】



【コクチバスとの見分け方】

コクチバス
 全長 30 ~ 50cm (最大 69cm)



オオクチバスに比べて口が小さい
 (上顎の後端が目の中央より前方にある)

オオクチバスとは
 体側の模様が違う

口が大きい
 (上顎の後端が目の後縁より
 後方に達する)

体側に太く黒い縦条が1本入る

未成魚の期間は約2年
 (1年で全長18cm、2年で25cmに達する)

【未成魚】



成魚と比べて
 体側の黒色の
 縦条が明瞭

【どこまで広がっているか】

長野県では

- ・深見池、白樺湖、諏訪湖、野尻湖、仁科三湖など
- ・天竜川、千曲川にも分布
- ・その他、県内各地の止水域に分布しているが詳細は不明
 (美鈴湖(松本市)、室山池(安曇野市)、小坂田池(塩尻市)、小仁熊ダム(筑北村)など)

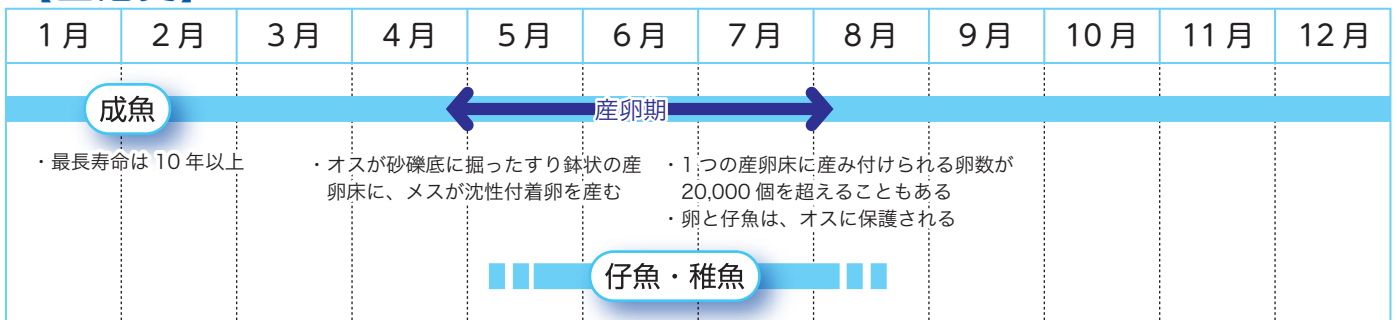
全国では

- ・1925年に芦ノ湖に導入されたのが最初
- ・1970年代から意図的な放流で急速に分布が拡大
- ・2001年には全都道府県に分布
- ・現在は、北海道を除いて定着(北海道では根絶に成功)

【生息場所・食べ物】

- ・天然湖沼やダム湖、ため池、公園の池、河川の中・下流域等に生息
- ・稚魚はミジンコ等を食べるが、全長2~3cmになると他の魚類の仔稚魚も食べる
- ・成魚は魚類や甲殻類を食べるが、生息環境によっては、陸生・水生昆虫、カエル、サンショウウオ等を食べる

【生活史】



【防除方法】

特定外来生物オオクチバスの生きたままの運搬は禁止されています。
捕獲したら、陸上に上げる、土に埋める等、その場でしっかり殺処分しましょう。

釣りて捕獲 繁殖を抑制する

誰でもできる!

▶詳しくは、水産庁発行「誰でもできる外来魚駆除」を参照

釣りは、大型魚を駆除できる効率的な方法。釣った魚をリリースしないことが重要!

●釣りて捕獲する

- ・餌釣り、ルアー釣り（流水、止水どちらでも）
竿：溪流竿 or 本流竿 (4.5-8.5m)
仕掛け：2.0-2.5号道糸+小型玉浮き+1.5-2.0号ハリス+針
餌：生きたスズエビやドバミズ、テナガエビ、生きた小魚
※川でオオクチバスを狙うには、流れのゆるい場所を選ぶとよい
- ・ペットボトルを用いた流し釣り（止水域）
蓋をしたペットボトルに1mの釣り糸を結ぶ
軸長2cmの釣り針をつけ、生き魚の背をちょん掛け
上記のペットボトル仕掛けを流し、1日後に回収

●釣り大会に参加する

- ・仁科三湖では、外来魚駆除を目的としたバス釣り大会が開催される
- ・所管する漁協、漁連に問い合わせて、開催日を把握する

漁具漁法によって必要な手続きや体制があります

- ・漁具の使用は、「長野県漁業調整規則」に従うこと
- ・禁止事項の一部を特別に許可する特別採捕許可（特採）の申請が必要な場合もある
- ・漁業協同組合と調整が必要な場合もあり

どのような捕獲ができるか、まずは相談を!

- ・漁業調整規則や申請についての相談先
▶各地域振興局 農業農村振興課
▶県庁 園芸畜産課 水産係
- ・漁法や場所についての相談先
▶県水産試験場

捕獲する 根絶を目指す

●網等で捕獲する

- ・刺網（一枚網及びかけ上げり用）やカゴ網で捕獲する
- ・電気ショッカーボードで捕獲する（要特採）

●ため池の水を抜く（在来の水生生物に十分な配慮を!）

- ・小規模な池等であれば、水を抜いての捕獲が可能
- ・水を抜いたあとは、しばらく干す
- ・水量を減らして、水温を高くすることで死滅させることも可能

※管理者、所有者と相談が必要 ※作業前に外来種が流出しない対策をすること

次世代を絶つ 繁殖を抑制する

●卵を駆除する

- ・産卵床（径40～100cmの円形）の卵とオス親を駆除する
- ・産卵床はオスによってきれいに掃除されているため識別可能

●産卵適地を網等で囲う

- ・産卵期、産卵場所を刺網やネット等（目合いによって要特採）で囲い、親魚を捕獲かつ産卵床の形成を阻止する
- ・池やダム湖等では水位を低下させる

●オス親を捕獲し、他魚種による卵の捕食を促進させる

- ・小型三枚網で、産卵床を守るオス親を捕獲する（要特採）
- ・卵を守るオスがなくなると、ほとんどの卵がウグイやコイ等の他魚種に捕食される

●浮上仔稚魚を捕獲する

- ・産卵床の上に浮上してきた仔魚と稚魚をタモ網（要特採）で捕獲する（浮上後3日程度は小さく群れている）



【刺網】（目合いによって要特採）

刺網にかかった魚は全て弱ってしまうため、在来種が犠牲とならないように目合の大きさを5cm程度に調整するなど配慮する。



【小型三枚網】（要特採）

細かい目合の網の両側に、大きい目合の網を重ねた計3枚の網。上部にウキ、下部におもりがあり、水中で自立する。各産卵床の上に1基ずつ設置し、オスを捕獲する。（網が汚れてくると、網の存在を魚が認識してかかりにくくなる事例あり。）

【長野県ではこんな場所で低密度化に成功しています】

美鈴湖のオオクチバス駆除

- 2年間でオオクチバスを1000匹釣り、ワカサギ漁場が回復した
 - ・対策しない年は、秋のワカサギ釣りで釣果なし
 - ・オオクチバスは夏以降にワカサギを多く捕食
 - ▶作戦：夏までに、ワカサギを食べる大型個体を徹底駆除
- 2年目までは管理者や水産試験場職員が作業を担ったが、3年目からはワカサギ釣りを楽しみにするボランティアが主な担い手に!

金原ダムのオオクチバス駆除

- 11年間駆除を継続し、オオクチバスの繁殖を抑制
 - ・複数の漁具（アイカゴ、かけあがり用刺し網、水中銃）を利用
 - ▶2017年には繁殖による次世代（仔魚）が捕獲されなくなった
 - ・水抜きができない止水域でも駆除は可能
 - ・大面積の水域でも駆除できる
 - ・水深が深くても（16m）湖岸のみの捕獲で駆除できる

▶詳しくは、水産庁発行「誰でもできる外来魚駆除」「だれでもできる外来魚駆除2」を参照

写真提供 *長野県水産試験場